

第18回JAMS研究大会 プログラム

大会委員 金子芳樹(獨協大学)

大会実行委員 多和田裕司(大阪市立大学)

●日程: 2009年12月12日(土)、13日(日)

●会場: 大阪市立大学 学術情報総合センター 1F 文化交流室
(大阪市住吉区杉本3-3-138)

●アクセス: JR阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東へ徒歩約5分

地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分

・「あびこ駅」へは「新大阪駅」から地下鉄御堂筋線で直接お越し頂くことができますが、駅から大学までの道が少しわかりづらいかもしれません。

・「杉本町駅」にお越し頂く場合は、「新大阪駅」から地下鉄御堂筋線で「天王寺駅」まで出て、JRの「天王寺駅」からJR阪和線(普通電車)を利用という乗り継ぎになります。

HP: <http://www.osaka-cu.ac.jp/info/commons/access-sugimoto.html>

●プログラム

◆12月12日(土) 受付時間:12:30

13:00 開会挨拶 多和田裕司(大阪市立大学)

13:10-15:40 公募パネル

テーマ「研究者の多様化の時代における学協会のあり方——JAMSの学会化に何を期待するか」

山本博之(京都大学)趣旨説明・司会

1. 金子芳樹(獨協大学)「JAMS学会化の経緯、課題、展望:法人化の流れの中で」
2. 西尾寛治(防衛大学校)「JAMSと地域:研究対象はマレーシアか、近隣地域も含むのか」
3. 岡本義輝(宇都宮大学博士課程)「民間企業での経験を踏まえ、JAMSに期待するもの:マレーシアの日系企業に役に立つ研究も」
4. 吉村真子(法政大学)「マレーシア研究と学会の連携:国際的・国内的な連携の可能性の視点から」
5. 宮崎恒二(東京外国語大学)「研究者コミュニティを超えて」

16:00-17:20 会員総会

17:30-19:30 懇親会(学術情報総合センター 1F ウィステリア)

◆12月13日(日) 受付時間:9:00

9:30—12:30 個別研究

9:30—10:15 報告(1)

岡本義輝(宇都宮大学博士課程)「日系企業・海外 R&D 部門への派遣者の人的資源管理の現状と課題—マレーシアの日系企業を事例として」

10:15—11:00 報告(2)

綱島(三宅)郁子「『プラナカンの新約聖書』—キリスト教共同体によるババ・マレー語の保存と復権」

(*) 報告(1)(2)の司会 信田敏宏(国立民族学博物館)

11:00—11:45 報告(3)

都築一子(NPO SV 経験を活かす会)「マレーシア・サバ州におけるゴム廃園の活用—自然環境保全とエコ・ツーリズムに向けた取り組み」

11:45—12:30 報告(4)

伊賀司(神戸大学博士課程)「東南アジアにおけるインターネットの展開—マレーシアとインドネシアの事例から」

(*) 報告(3)(4)の司会 上田達(摂南大学)

12:30—13:30 昼食休憩

13:30—16:30 共通論題

テーマ「マレーシア都市の諸相:多民族空間の過去、現在、未来」

多和田裕司(大阪市立大学)趣旨説明・司会

1. 泉田英雄(豊橋技術科学大学)「マレーシア地方都市形成と華人新村」
2. 宇高雄志(兵庫県立大学)「世界文化遺産をまもること:あるモスクの保全と開発をめぐる」
3. 藤巻正己(立命館大学)「クアラルンプルの心象地理:スコッター都市、マハティールの都市、トランスナショナル都市」

穴沢 眞(小樽商科大学) コメンテーター

祖田亮次(大阪市立大学) コメンテーター

16:30 閉会挨拶 原不二夫(会長、南山大学)